

## 短期入院にて初めて心臓カテ - テル検査(心カテ)を受ける患者の不安の軽減

- 患者用クリニカルパス(CP)をパンフレット形式にしオリエンテーションと生活指導を試みて -

田上友紀子 大崎律子 千田美和 木下直美 前田恭子 灘村昌子 樋木和子  
金沢循環器病院 7階病棟

【目的】当院では心カテ目的の入院に対して CP を導入している。心カテ入院の在院期間が日帰り～3日間に短縮されたがこの限られた時間のなかでいかに指導を充実させるかが問題となっている。現状では患者用 CP は3日間のタイムテーブルでわけ、A3用紙1枚に文章が中心となったものを使用している。また退院指導面では、退院指導用パンフレットを作成し使用しているが、これも文章中心でありイラストを加えてはいるが白黒で視覚的に訴えるにはやや弱いものであった。初めて心カテを受ける患者にとっては検査の流れのイメージがつきにくく不安を訴える患者も多く、また看護サイドとしては退院指導の不十分さを感じるなど改良の必要性を感じていた。そこで患者用 CP を写真入りパンフレットに改良し、カテ前、カテ後の2部構成で使用することを試みた。カテ前は先行研究を参考にし、カテ後は当院独自の内容で作成した。このパンフレットを使用することにより初回心カテ入院患者が心カテへの不安と入院・退院後の生活に対する不安をどの程度軽減できるか、パンフレット使用患者(実験群)と従来の CP 使用患者(対象群)とに分け、STAI 質問用紙(STAI)と当院作成の質問紙(質問紙)で比較し評価したので報告する。【対象】初回心カテを受けた患者。年齢・性別は問わず。【パンフレットの内容】カテ前は先行研究の内容を参考にし、心カテを中心に検査前の準備や検査後の食事、安静度についてなどを写真入りで圧迫介助後までの流れを記載。退院指導用は当院の看護婦、医師により内容を検討し検査結果、治療方針のほか退院後検査部位の自己管理について、食事・内服・日常生活面の注意事項、ニトロの使い方などを写真・イラスト入りで記載した。注意して欲しい項目は赤字にし、吹き出しを入れるなどのレイアウトに工夫をした。【当院の質問紙の内容】心カテの方法、安静度、結果、準備について不安があるか、パンフレットを読んでそれらが軽減出来たかを4段階の尺度で作成した。同様に退院に向けて検査部位の管理方法、日常生活、内服薬についてなどに不安があるかパンフレットをみて軽減出来たかを心カテ後の質問紙として作成した。【方法】実験群には心カテが決まった時点で外来にてカテ前パンフレットを渡し外来看護婦が心カテについて説明する。対象群には従来の患者用 CP を渡し説明する。どちらも不安について説明前に質問紙と STAI を聴取した。入院後実験群・対象群共にパンフレット・CP を読んでから入院するまでの不安を聴取し、心カテに望んでいた。心カテ後、実験群には新しく作り直した退院用パンフレットを使用し、対象群には従来のパンフレットを使用して説明し質問紙と STAI を聴取した。【結果】STAI による心カテ前後の調査では実験群、対象群ともに特定の時期に起こる不安を表す状態不安は前が～であったが後は～となり著明に変化が見られたが、特性不安では前後に著変が見られる患者は少なかった。質問紙による調査では、心カテ前の不安は検査方法や結果について50%の患者が不安を持ち、検査の準備、安静度については50～75%の患者が不安を持っていた。オリエンテーション後では実験群の方が心カテ前から圧迫解除までの流れを理解できわかりやすかったという意見が多く、やや不安の軽減につながった。退院指導では実験群・対象群とも数値的には大差はなかったが、従来の CP 使用者からは「イラストや写真が多くあったほうがいいと思う。」という意見があった。実験群からは「カラーの方が見やすい」「文字の大きさがちょうどいい」「今後の生活に役立つ」との意見があった。【考察】初めて心カテを受ける患者にとって、検査結果はもちろんであるが入院してから心カテ終了までの一連の流れがどのように進むのかに関して不安があり、想像つきにくいものであることがわかった。STAI では前後の状態不安が著明に変化した。これは検査そのものが終了したこと、検査結果が大きく関連していると考えられ、これだけではパンフレットを使用したことによって不安が軽減できたとは一概には評価できない。しかし、質問紙による調査では、初回心カテ入院の患者には活字だけの説明用紙よりも写真やイラストを多く取り入れた方が受け入れやすくイメージがつきやすいことがわかった。特に、注意して欲しいことなどを赤字にする、吹き出しを使うなどのレイアウトの工夫が患者にとってはわかりやすいものになっていたと考えられる。患者用 CP をパンフレットという形式にすることで1枚の用紙では限界があった患者へのより詳しい情報の提示ができた。今後もより充実したオリエンテーションや指導を行うために、内容をさらに検討し、重ねて退院後も継続的な看護が行えるシステムを考えていきたい。